

「光輝（かがやき）」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に知識を幅広く活用し、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会の発展に貢献する子どもの育成を目指します！

「光輝（かがやき）」カリキュラム開発の意義と課題

広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校は、文部科学省の研究開発学校に指定され、「光輝（かがやき）」のカリキュラム開発に取り組んでいます。

昨年度からの4年間の研究開発課題は、「高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元（横断的な知識・レジリエンス・躍動する感性）の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発」です。具体的には、①道徳・特別活動・総合的な学習の時間のすべての時数と各教科の4分の1程度までを含んだ新領域「光輝（かがやき）」を小学校・中学校に設置して単元開発に取り組む、②幼稚園では新領域につながる「光輝（かがやき）視点の保育」で3つの次元の基礎となる資質・能力の育成に取り組んでいます。このような「光輝（かがやき）」のカリキュラム開発でめざすのは、「互いに高め合う環境の中で共創の喜びを感じながら、広い視野から知性を磨き、挑戦する気概を持ち続けて、社会の発展に貢献する高い志を持つ子ども」の育成です。わかりやすく言えば、自ら学ぼうとする姿勢、論理的に問題を解決する力、粘り強く取り組む力、複眼的に思考する力、人間味溢れる豊かな感性等を育成していくことをめざしています。

さて、このような「光輝（かがやき）」のカリキュラムを開発する意義はどこにあるのでしょうか。学校教育の役割は、大きく二つに分けて考えることができます。その一つが、大人として生きていくために必要な知識を系統的に教えていくという役割です。もう一つが、子どもの生活や経験を踏まえて育みながら、社会で生きていくために必要な資質（能力や態度）を育成していくという役割です。今日の日本の学校教育は、前者のタイプに位置づけることができると言ってよいでしょう。より多くの知識を体系的に習得していくことができるという点で、こうしたカリキュラムには一定の意義を認めることができます。しかし、各教科の学習で習得した知識と道徳や特別活動などの時間で教えられる態度が分離してしまいかねないという大きな問題点を抱えています。

本来、「私は（私たちは）どのように生きていけばよいのか」「その場でどのように振る舞えばよいのか」と考えるとき、それまでに習得した知識や経験が豊富であればあるほど考えは深まるものです。言い換えれば、自らの生き方や態度を考えるための素材として知識や経験が機能し、知的な側面と態度的な側面が結びついてこそ、よりよく人は生きていくことができるものです。とは言え、知的な側面と態度的な側面を結びつける、言い換えれば、各教科の学習と道徳や特別活動の学習を総合して、学校教育のカリキュラムを開発することは容易なことではありません。

学校教育の歴史を紐解けば幾多の試みがなされてきていますが、今日のグローバル化した社会や子どもが直面している諸課題を踏まえて知的な側面と態度的な側面を結びつけた学校教育のカリキュラムを開発するという「光輝（かがやき）」の取り組みは、大きな挑戦と言ってよいでしょう。広島大学附属三原学校園の教職員は一丸となって、この課題に取り組んでいます。保護者の皆様におかれましては、本学校園の特長と研究開発学校制度の趣旨をご理解の上、私たちの取り組みについてご意見をお聞かせいただくとともに、研究開発に関わる諸活動にご協力をいただきますよう心よりお願いいたします。

広島大学附属三原学校園長 木村 博一

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/kenkyu/